

福島地域マリンビジョン

海峡の横綱を目指して ～ステップアップ福島～

水産物の安定供給
基盤・体制の確保

漁村地域の
総合的な振興

環境・生態系保全と
グリーン社会の構築

■地域マリンビジョン協議会【メンバー構成】

- ・福島町
- ・福島古岡漁業協同組合
- ・福島町水産加工振興協議会
- ・福島町商工会
- ・一般社団法人福島町まちづくり工房
- ・千軒活性化実行委員会
- ・その他協議会の趣旨に賛同し協議会が認めるもの

●基礎データ

地域人口：3,378人（福島町、R6.12住民基本台帳）
漁業生産量：543 t（R5北海道水産現勢）
漁業生産額：1,015百万円（R5北海道水産現勢）
漁港：福島漁港（福島地区）、福島漁港（浦和地区）
福島漁港（白符地区）（第3種）
吉岡漁港（第2種）、岩部漁港（第1種）

《令和7年3月改訂》

地域の将来像

テーマ：庭先型漁業で新鮮な魚を全国へ

水産物の安定供給基盤・体制の確保

- ・持続的漁業生産体制の確立
- ・蓄養殖生産拠点の形成
- ・水産流通の適正化
- ・スマート水産業の推進
- ・高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築

★ウニの海面蓄養殖事業の展開

★新幹線を活用した物流体系の構築

- ・種苗生産施設の利用展開
- ・衛生管理施設の運用とPR展開

★は特に重点的に取り組む事項

漁村地域の総合的な振興

- ・海業振興による地域資源を活かした新産業の創出
- ・地域振興を担う人づくり
- ・多面的機能の発揮
- ・多様な連携による地域振興

★イベント等による水産品の販売展開

★地元関係企業等との連携による協働

★食育等を通じた魚食文化の維持・継続

★は特に重点的に取り組む事項

環境・生態系保全とグリーン社会の構築

- ・沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり
- ・漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進

・エサ用コンブ養殖等によるカーボンニュートラルの推進

・ウニの密度管理による藻場再生

地域全体

現状

- ・町全体の人口減少と高齢化が進行
- ・町全体の漁獲量は横ばい傾向
- ・魚種別漁獲ではコンブ安定、イカ低迷
- ・水産物出荷手段の減少、流通範囲の狭小化
- ・陸上養殖施設を活用した漁獲維持の取組み
- ・各種オリジナルの水産加工品を開発・販売
- ・未利用だった間引きコンブを新食材に利用
- ・コンブ養殖活動によるCO2吸収効果への貢献
- ・岩部クルーズなど地域資源を生かした観光実施
- ・地域の水産物を活かした食育教室が活発

課題

- ・需要の高いウニの安定供給
- ・高齢漁業者のリタイア年齢の向上
- ・蓄養殖事業に対する採算性の向上
- ・漁港静穏域を活用した蓄養殖事業の推進
- ・放流事業の拡大・推進
- ・売上増加に繋がる多様な流通体制の構築
- ・ブランド化による地域活性化
- ・藻場造成プロジェクト（JBC認証）の更なる拡大
- ・海業振興による新産業の創出
- ・地域振興を担う人づくりの推進
- ・未利用水産資源利活用による産業維持

【位置図】



【福島漁港（福島地区）】



【福島漁港（白符地区）】



【福島漁港（浦和地区）】

地域資源（特徴）



【高級店でも利用される町内産ウニ】



【漁港内の種苗生産施設】



【屋根下で陸揚げされる
衛生的な養殖コンブ】



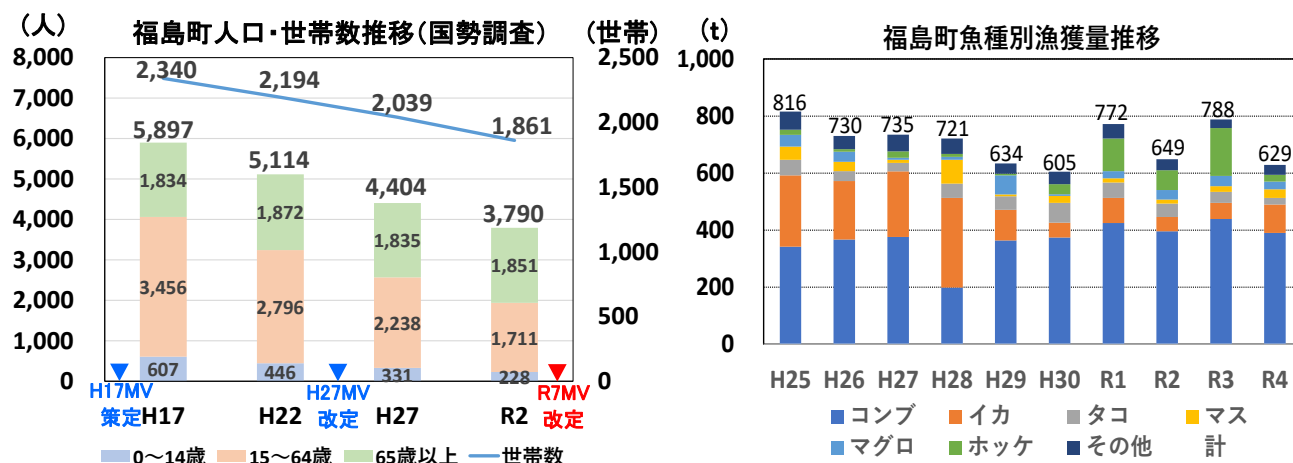
【水産加工品（乾物するめ）】



【未利用コンブで所得向上、
女性也大活躍】



【海からしかアクセスできない景勝
地を生かした岩部クルーズ観光】

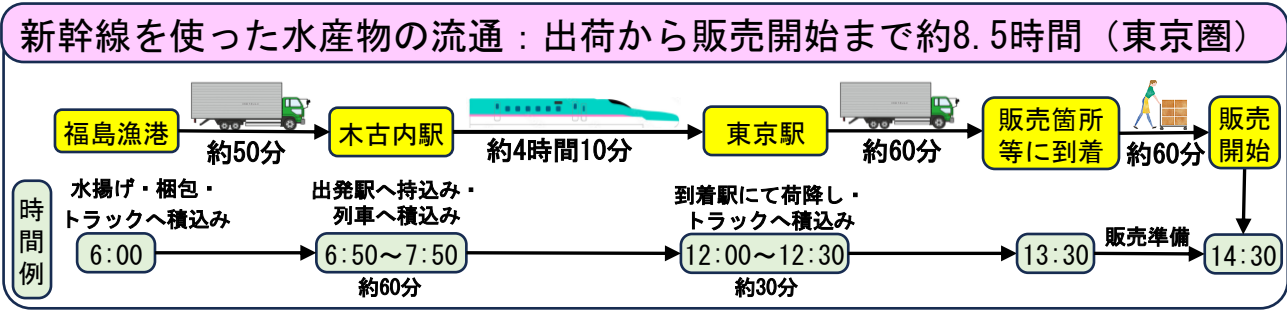


水産物の安定供給基盤・体制の確保

【持続的漁業生産体制の確立】 【養殖生産拠点の形成】
【水産流通の適正化】 【スマート水産業の推進】
【高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築】 【水産物輸出の更なる推進】

福島地域マリンビジョン

水産物の安定供給基盤・体制の確保	現状	①ふるさと納税で提供している「塩水ウニ」が好評で品切れ状態。 ②近くに新幹線の木古内駅がある。 ③ウニ・コンブの種苗生産施設があり、近隣の町からも問い合わせが来ている。 ④衛生管理施設を建設中。 ⑤未利用魚・低利用魚種（クロソイ、イシダコ（マダコ））がある。 ⑥港内未利用用地がある。
	課題	①蓄用施設がないため安定供給できていない。 ②東京など都市圏への物流体制が構築されていない。 ③他地域で種苗不足があったときなど、種苗生産施設を活用するルールがない。 ④衛生管理施設の運用方法や安全安心を内外にPRすることが課題。 ⑤認知度が低くブランド化や流通体制が確立していない。 ⑥未利用用地の活用方法が課題。



推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
ウニの蓄養殖	主体：漁協、役場	短期：試験蓄養殖開始、関係機関協議（海保、北海道、開発局）	・蓄養ウニ生産量0t→3t ・塩水パック出荷個数2,640個→17,000個
		中期：イベントへの出品、観光客への試験販売	
		長期：ウニ塩水パックの安定的な供給、観光客などへのウニ販売	
新幹線を活用した流通網の構築	主体：漁協、役場	短期：東京圏への輸送試験の実施（ウニ塩水パック）	・販売量0t→1t
		中期：ウニ以外の魚種（クロソイなど未利用魚）について可能性模索	
		長期：東京圏及び札幌圏への販売ルート開拓	
種苗生産施設の活用検討	主体：役場	短期：法令（補助金要件など）などの確認、関係機関との調整	・協定の締結（数値目標は定めない）
		中期：需要量などの確認・検討	
		長期：協定締結など具体的な検討	
コンブ共同利用施設の検討	主体：役場	短期：利用者ヒアリングなど基礎調査	・共同利用漁家数0件→59件（全昆布漁家）
		中期：コンブ共同利用施設の検討	
		長期：施設整備の実施	
各種PR方法の検討	主体：MV協議会	短期：プロモーション手法の検討（認知度の向上、差別化、購買意欲の喚起について）	・実施回数0回→3回
		中期：－	
		長期：プロモーションの実践（具体例：物産イベント出展、SNSを活用した口コミキャンペーン、サンプル配布、限定セールの実施、プレスリリースによるサービスの発表等）	

漁村地域の総合的な振興

【海業振興による地域資源を活かした新産業の創出】
【地域振興を担う人づくり】
【多面的機能の発揮】 【多様な連携による地域振興】

福島地域マリンビジョン

漁村地域の総合的な振興

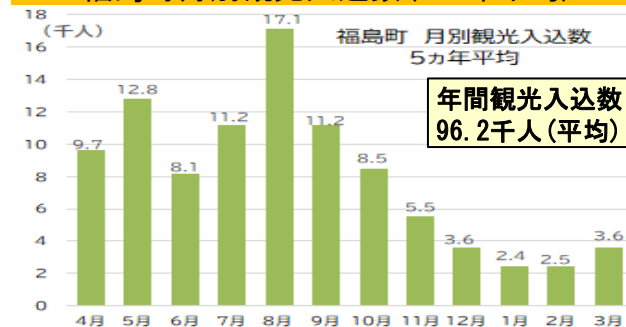
現状

- ①漁協直売は好評だが、年数回しかない。
- ②観光客が年間10万人弱来町し、みんなウニを食べたいという。
- ③食育教室・調理体験・食材提供等を実施。水産業への興味・関心向上を図っている。
- ④福島産水産物を使用したオリジナル商品を多数開発し、道の駅にて販売。
- ⑤岩部海岸(青の洞窟)クルーズによる観光プログラムを構築

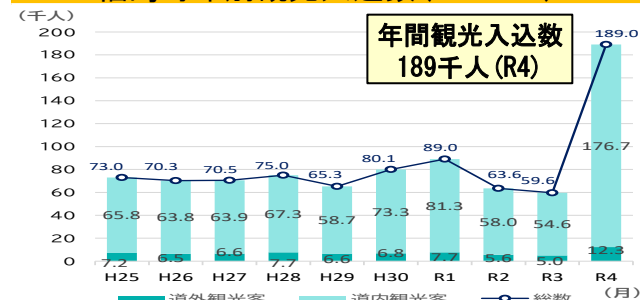
課題

- ①多様な主体との連携が取れていない。
- ②ウニなど地元海産物を食べる場所がない。
- ③食育教室などは継続する必要がある。
- ④加工品売上増加、ブランド化による地域活性化等
- ⑤地域漁業の継承、水産業の着業世帯維持等
- ⑥コンブ生産量増、地域雇用増、地場産業の維持等
- ⑦観光来訪者の増大、町内の観光収入・雇用の増加等

福島町月別観光入込数(5か年平均)



福島町年別観光入込数(H24～R4)



岩部海岸(青の洞窟)クルーズ



青の洞窟



福島町観光プログラム



【道の駅横綱の里ふくしまで販売される特産品】



道の駅店舗



水産加工製品セット



コンブ加工品



イカ加工品



あわびカレー



うみのうみ

【次世代への漁業継承に向けた人材育成の取組】



食育教室の開催



食育教室の開催



食育教室の開催



食育教室の開催



地元食材を使った料理教室



地元食材を使った料理教室

海産物の直売会



外国人観光客の相撲体験



推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
多様な協働によるイベント開催	主体：漁協、MV協議会	短期：運営方針の検討・立案（岩部クルーズ等との連携、蓄養殖ウニの販売や漁協直売会の回数増）	・ イベント開催回数 1回→3回
		中期：直売会等、イベントの実施	
		長期：－	
食育など魚食文化の維持・継続	主体：漁協、役場	短期：食育教室・調理体験・食材提供等の継続	・ 食育教育実施 (数値目標は定めない)
		中期：－	
		長期：－	
蓄養事業推進による物販商品の確保	主体：漁協、役場	短期：蓄養魚種の検討	・ 蓄養魚種による販売額 12,960万円（ウニ）
		中期：蓄養試験等によるトライアルの実施、蓄養事業の実施	
		長期：－	

環境・生態系保全とグリーン社会の構築

環境・生態系保全とグリーン社会の構築	現状	①磯焼けやウニの実入りが悪い。 ②港内泊地の静穏域がある。 ③藻場造成プロジェクト(北海道ふくしま町“青×蒼”プロジェクト)を実施。
	課題	①磯焼けへの対応、ウニの実入り向上。 ②ウニ蓄養殖で使用するエサ(コンブ)が不足している。 ③藻場造成プロジェクトの拡大・推進 ④藻場造成(藻場面積)、漁獲の維持、脱炭素化

【北海道ふくしま町“青×蒼”プロジェクトの概要】

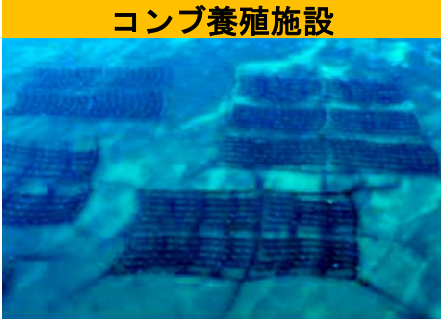
- 高い透明度を誇る福島町の“青”い海と、海藻が生い茂る様子を“蒼”に見立て、養殖コンブや天然海藻で海の緑化を目指すプロジェクト。
- 環境変化が漁業活動に影響を及ぼし始めた1970年頃より、漁業者が主体となりコンブ養殖を開始し、持続可能な「つくり育てる漁業」への転換を図る。
- コンブ養殖による気候変動緩和策への貢献に向けて、「養殖コンブの生産量の維持・増大」のため、漁協、漁業者、町が一丸となり持続的なコンブ養殖業を目指した活動を行うほか、養殖活動による具体的なCO2吸収量の算出などにも取り組んでいる。

【天然ウニの間引きによる密度管理。直売会で販売。】

- 藻場保全の観点から、天然ウニを間引きし、漁協青年部が中心となり密度管理を行っている。
- 間引きウニは計画的にエサを与えられる分、天然より実入りが良く品質が良い。
- 間引きウニは、ゴールデンウィークに行われる直売会で販売し好評を得ている。

- 【沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり】
- 【漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進】
- 【水産系廃棄物等のリサイクルの推進】

福島地域マリンビジョン



プロジェクト名称	プロジェクト実施者	クレジット認証			クレジット当初保有・譲渡				クレジット無効化	
		認証年月日	数量[t-CO2]	属性	当初保有者	譲渡年月日	数量[t-CO2]	譲受者／保有者	無効化年月日	数量[t-CO2]
コンブ養殖による藻場の創出・保全活動 「北海道ふくしま町“青×蒼”プロジェクト」	福島吉岡漁業協同組合 福島町	2024/2/27	369.9	自然系(吸収源対策)クレジット	福島吉岡漁業協同組合	2024/4/19	53.0	北海道漁業協同組合連合会	2024/5/7	53.0
					福島吉岡漁業協同組合	2024/4/19	21.0	北海道漁業協同組合連合会	2024/8/16	21.0
					福島吉岡漁業協同組合	2024/4/19	46.0	北海道漁業協同組合連合会	未	未
					福島吉岡漁業協同組合	2025/1/26	20.0	中塚建設株式会社	未	未

推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
ウニの密度管理	主体：漁協、役場	短期：ウニ密度管理方法の検討（採取箇所や数量など）	・藻場面積の増大（数値目標は定めない）
		中期：ドローン等活用による藻場管理	
		長期：クレジット認証	
餌用コンブ養殖	主体：漁協、役場	短期：港内実施箇所の選定、関係機関協議（海保、北海道、開発局）	・CO2吸収量算出（数値目標は定めない）
		中期：試験養殖開始	
		長期：クレジット認証	
蓄養殖事業に対応した岸壁・用地の改良等の検討	主体：漁協、役場、開発局	短期：岸壁・用地などの改良等の検討（低天端化、取水設備、棧橋設置、屋根設置、用地利用改変など）	—
		中期：改良等に向けた調査・設計	
		長期：改良施設の整備	